



# 2010年度(2011年3月期) 第3四半期 決算説明会

2011年 1月28日

**セイコーエプソン株式会社**

©SEIKO EPSON CORPORATION 2010. All rights reserved.

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## 「マネジメントアプローチ」にもとづく、開示セグメントの変更について

(2010年度から)

- 「マネジメントアプローチ」の考え方に基づき、  
2009年度まで各セグメントならびに各事業に売上高比率で配賦をしていた本社費用を  
2010年度からは「全社セグメント」に集約
- 「その他の事業」セグメントで計上していた、グループ向けサービスを目的とした  
子会社は機能を各事業に移管
- 2010年度予想の説明において、  
前年度を比較対象とする場合は、2009年度のセグメント損益もあわせて補正

2

### ■ 開示セグメントの変更

- 2010年度から、会計基準の変更  
「マネジメントアプローチ」によるセグメント情報の開示。

1) 2010年度 第3四半期決算

2) 2010年度 業績予想

## 決算ハイライト（9ヶ月累計）



9ヶ月累計 (億円)		2009年度		2010年度		増減	
		通算	%	通算	%	増減額	増減率
売上高		7,381	-	7,473	-	+92	+1.2%
営業利益		221	3.0%	338	4.5%	+117	+53.0%
経常利益		164	2.2%	325	4.4%	+160	+97.8%
税引前利益		74	1.0%	261	3.5%	+187	+249.9%
四半期純利益		△47	-0.6%	170	2.3%	+217	-
EPS		△23.82円		85.11円			
換算 レート	USD	93.56円		86.85円			
	EUR	132.99円		113.31円			

4

### ■2010年度第3四半期までの9ヶ月累計の状況

- この9ヶ月は、前年同期と比べ、ユーロ、USDドルともに円高に推移したことにより、9ヶ月通算では、売上高で 約460億円、営業利益で 約200億円のマイナス影響。
- 2010年は、このような厳しい為替の動向に加え、市場の回復スピードが依然として鈍い環境の下、当社では、SE15の実現に向けた中期事業計画の戦略に基づき、お客様のご要望にお応えした、競争力を高めた製品の市場投入を、確実に進めてきた。
- このような取り組みの結果、収益へ貢献する商品が整うとともに、事業体質の強化として従来から取り組んできた変動費のコストダウンや、固定費の削減・効率的な執行などの成果が現れ、着実に収益回復。

## 決算ハイライト（第3四半期決算）

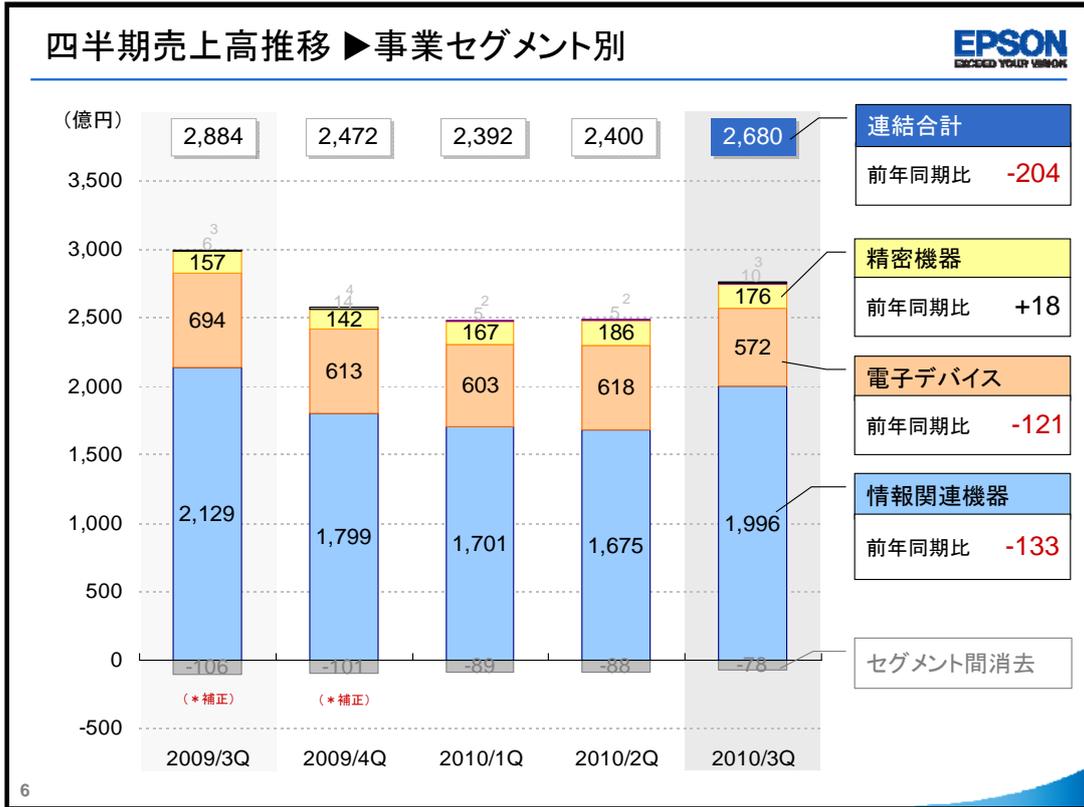


(億円)	2009年度		2010年度		増減	
	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,884	-	2,680	-	-204	-7.1%
営業利益	314	10.9%	192	7.2%	-122	-38.9%
経常利益	308	10.7%	176	6.6%	-132	-42.8%
税引前利益	278	9.7%	127	4.8%	-151	-54.2%
四半期純利益	244	8.5%	95	3.6%	-149	-61.0%
EPS	122.36円		47.78円			
換算 レート	USD	89.71円	82.64円			
	EUR	132.68円	112.23円			

5

### ■2010年度 第3四半期の実績

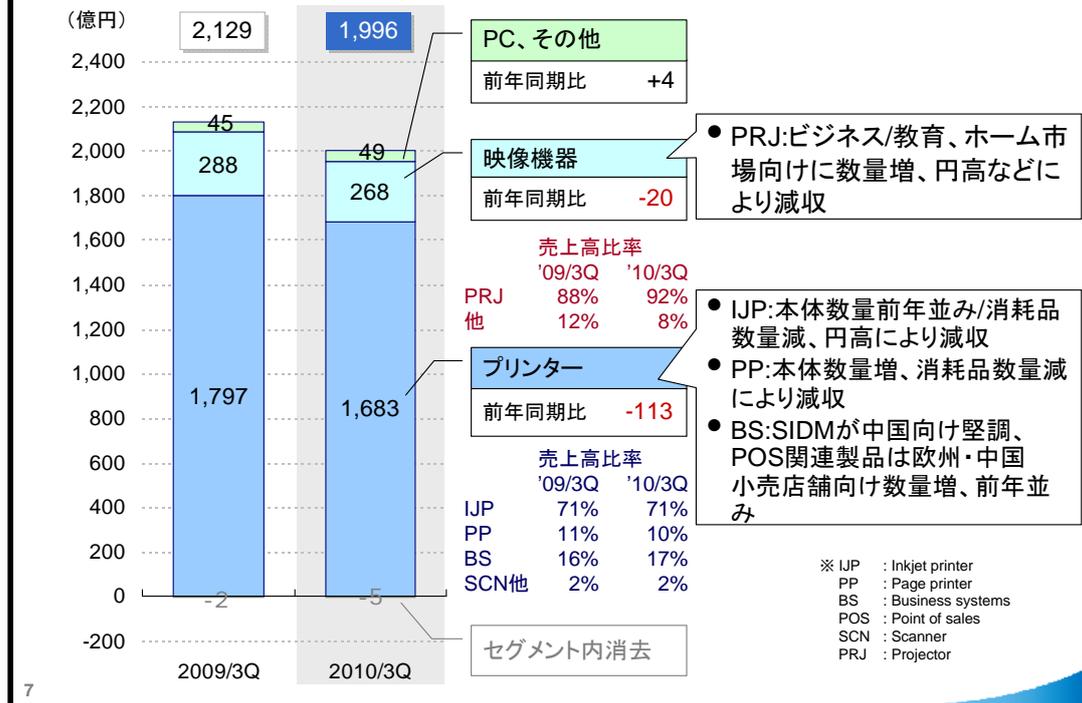
- 第3四半期の社内計画に対しては、売上高は、情報関連機器において、高い目標を設定したインクジェットプリンターが、年末商戦において市場が想定したほど回復しなかったため、本体の数量が目標に届かなかったことや、電子デバイスにおいて、水晶デバイスの平均単価が低下したことなどにより、未達。
- 営業利益は、情報関連機器は、売上高が計画に届かなかったことにより未達となったものの、電子デバイスにおいて、半導体事業が高付加価値モデルの販売増と、高稼働率の維持により、計画を上回った。  
これらに加え、各事業および全社において、費用の効率的な執行につとめた結果、ほぼ計画どおりの水準。
- 当第3四半期において、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結にともなう費用として、事業構造改善費用 53億円を、特別損失に計上。



■ 事業別セグメント別の四半期売上高推移

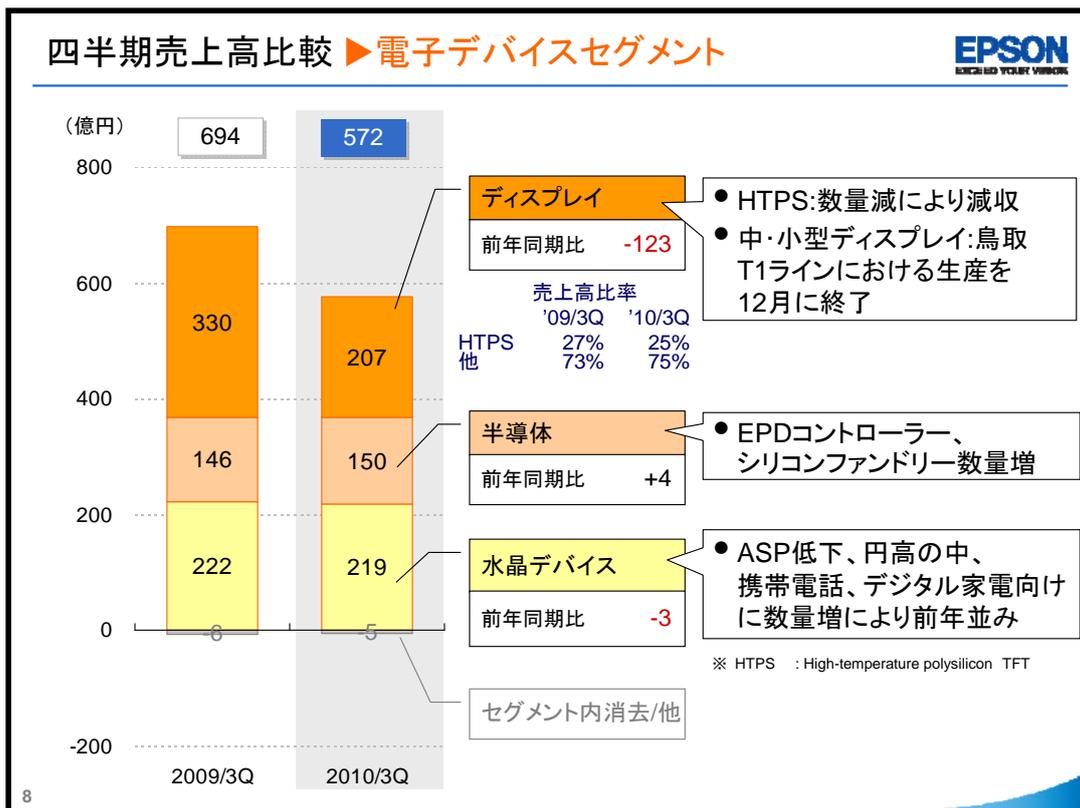
- 情報関連機器は前年同期比 133億円の減収、電子デバイスは 121億円の減収、精密機器は 18億円の増収。

## 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器事業セグメントの 第3四半期 売上高

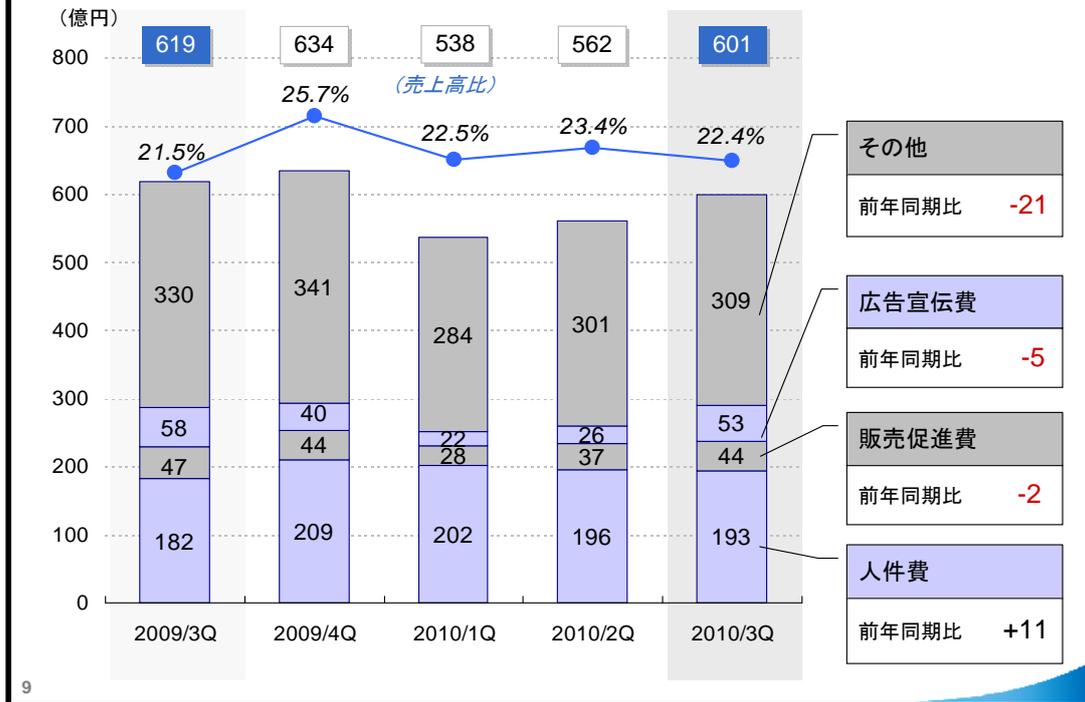
- プリンター事業は、113億円減収の1,683億円。
- インクジェットプリンターは、本体は前年並みの数量だが、消耗品が減少したことから、減収。本体の地域別状況は、米国市場が前年割れ、欧州市場が前年並みと低調な年末商戦となったが、当社は米国・欧州市場において数量、シェアともに伸ばした。日本市場においても数量増。アジア市場では、当社はビジネスモデルの転換を進める過程であることなどから、数量減。また、消耗品は、全般に市場が低調だったことにより、数量減。
- ページプリンターは、入札案件などへの積極的な取り組みにより、欧州、日本において本体の数量を伸ばしたが、消耗品の数量が減少により、減収。ビジネスシステムは、SIDMが中国向けの徴税需要を中心に堅調だったことに加え、POS関連製品が欧州や中国の小売店舗向けに販売数量が増加したことにより、ほぼ前年並み。
- 映像機器は、前年同期比 20億円の減収となったが、欧米のビジネス・教育市場向けや、ホーム向けプロジェクターを中心に、販売数量を伸ばした。
- 前回予想との比較
- インクジェットプリンターは、本体・消耗品ともに数量未達により、予想を下回った。コンシューマー向けについては、当社はマーケット成長を上回る高い数量目標を設定して取り組んでいたが、欧米市場での回復が鈍かったことに加え、競合他社が行った本体価格の値下げに対し積極的な追随をしなかったことにより、販売数量が予想を下回った。ラージフォーマットプリンターは、新製品の投入により計画を若干上回った。消耗品は、本体数量が未達だった影響などにより、予想を下回った。
- ビジネスシステムは、中国やアジアを中心にSIDMが堅調だったものの、POS関連製品が、欧米において大口の投資案件の回復速度が想定まで達しなかったことなどから、全体としては予想を下回った。
- ページプリンターは、欧州を中心に販売未達となったことにより、予想を下回った。
- 映像機器は、欧州市場は堅調に推移しましたが、アジアや米州を中心に数量が未達となったことにより、予想を下回った。



### ■ 電子デバイス事業セグメントの、前年同期比較

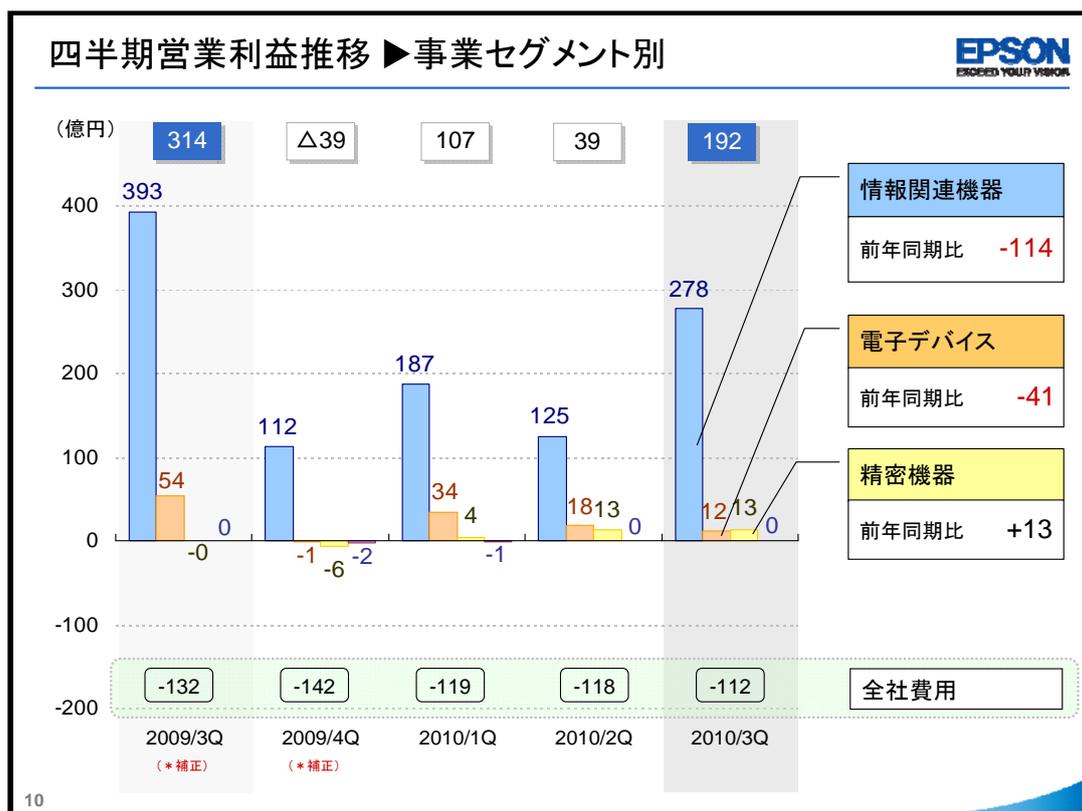
- 水晶デバイスは、ASPの低下、ならびに為替の影響を受けたものの、携帯電話、デジタル家電向けに数量が増加した結果、前年並み。
- 半導体は、電子ペーパー向けコントローラーや、シリコンファンドリーなどの数量増加により、前年並み。
- ディ스플레이事業は、前年同期比 123億円の減収。  
構造改革を進めている中・小型液晶ディスプレイが減収となったことと、プロジェクター向けの HTPSが、外部顧客向けを中心に数量減となったことにより、減収。  
なお、鳥取にある中・小型液晶ディスプレイの当社の生産ラインは、12月末をもって、生産を終了。
- 前回予想と比較
- 半導体が、電子ペーパー向けコントローラーや、シリコンファンドリーの数量増などにより予想を上回ったものの、ディスプレイならびに水晶デバイスは、数量未達などにより、予想を下回った。

## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■販売費及び一般管理費の四半期推移

- 引き続き費用の効率的な執行につとめたことに加え、円高の影響などもあり、前年同期並みの水準。



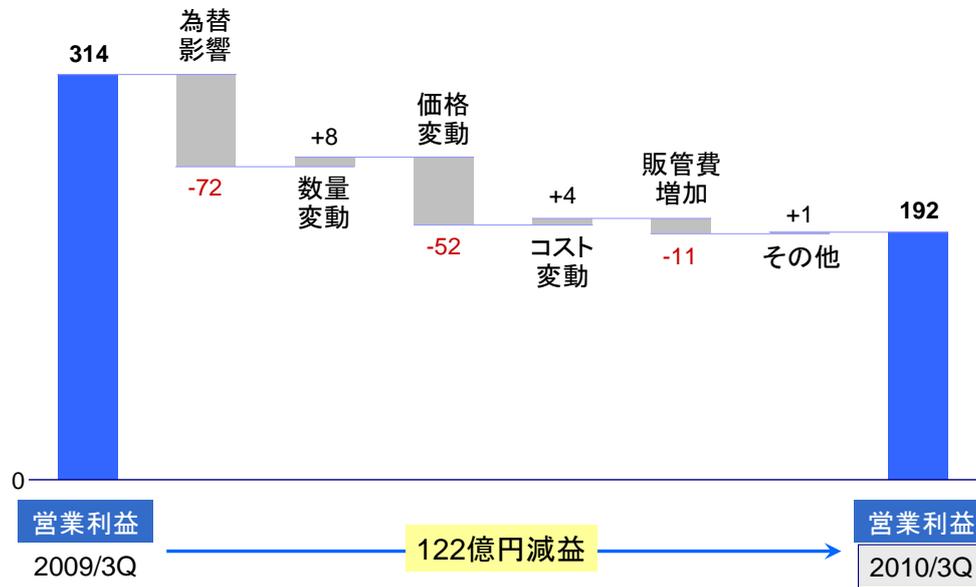
#### ■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 営業利益については、情報関連機器ならびに水晶デバイスにおいて、円高による為替のマイナス影響を大きく受けた。
- 情報関連機器は、前年同期比 114億円減益の 278億円。  
インクジェットプリンターは、本体のプラットフォーム共通化によるコストダウンを進めたがインクカートリッジの減収などにより、減益。ビジネスシステムとプロジェクターは、数量増となったが、モデルミックスによるASPの低下などにより減益。
- 電子デバイスは、前年同期比 41億円減益の 12億円。  
半導体は、モデルミックスの改善によるASPの上昇や、コストダウンへの取り組みなどにより、増益。水晶デバイスは、ASPの低下により、減益。ディスプレイは、減収により減益。
- 前回予想との比較
- 情報関連機器は、プロジェクターは、売上高は未達だったが、費用の効率的な執行などにより、予想を上回った。一方、ビジネスシステム、ページプリンターは、売上未達により、予想を下回った。インクジェットプリンターは、消耗品が予想を下回ったことに加え、本体の販売数量が予想を下回ったことによる、第3四半期末における一時的な在庫増加の影響などで、予想を下回った。
- 電子デバイスは、半導体事業において、収益性の高い製品の増加とともに、高稼働率を背景にしたコストダウンや固定費削減の成果により、予想を上回った。  
ディスプレイは、売上未達による影響を固定費削減によりカバーし、予想を上回った。  
水晶デバイスは、予想どおり。

## 営業利益増減要因分析



(億円)



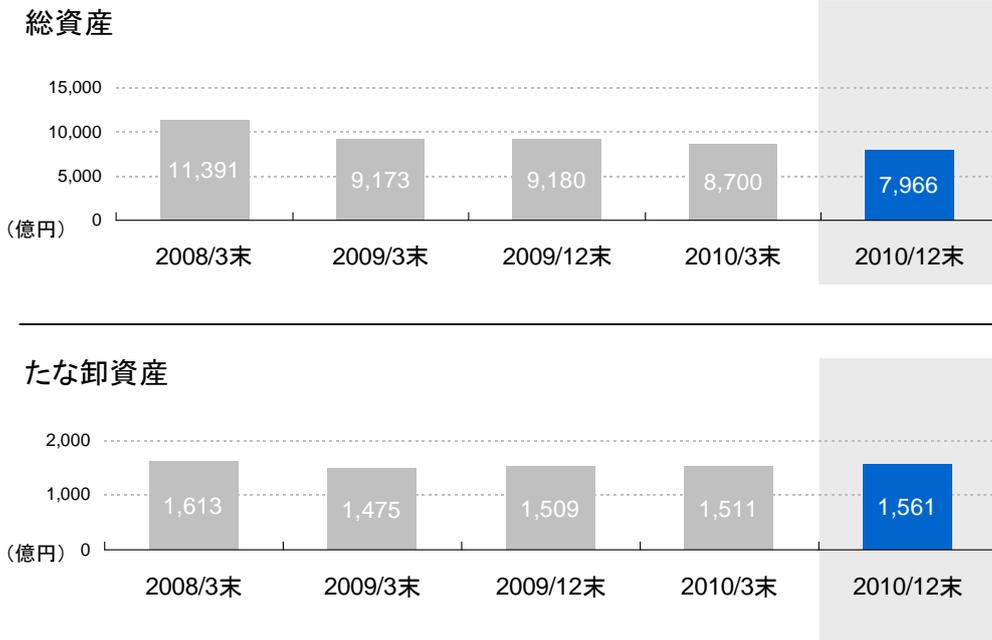
\* 2009年度損益については、旧基準による損益を使用

11

### ■ 営業利益の前年同期比の要因分解(参考)

- 2009年度 第3四半期の営業利益 314億円 に対し、  
為替影響、価格変動の減損要因により、当四半期営業利益は 192億円。

## 貸借対照表主要項目推移



12

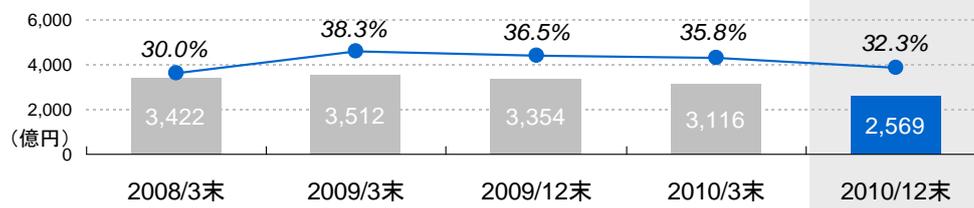
### ■貸借対照表の主要科目

- 総資産は、前期末に比べ受取手形および売掛金や、たな卸し資産の増加があったものの、借入金返済などによる現金および預金の減少や、設備投資の精査・厳選による有形固定資産の減少などにより、733億円減少。

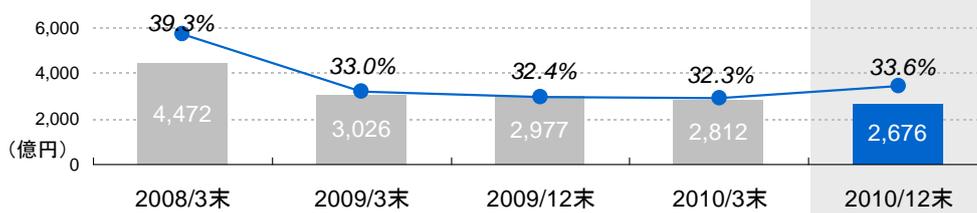
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債=2008年度からリース負債を含む  
\*自己資本=純資産合計-少数株主持分

13

### ■貸借対照表主要項目

- 有利子負債は、借入金の返済を進めたことにより、前期末に比べ、547億円減少し、総資産の有利子負債依存度は 32.3%。
- ネット有利子負債は、819億円。
- 円高により為替換算による影響を受けて、自己資本は 136億円減少。その結果、自己資本比率は 33.6%。

1) 2010年度 第3四半期決算

2) 2010年度 業績予想

■2010年度の業績予想

## 2010年度業績予想



(億円)	2009年度		2010年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	10/29予想	%	今回予想	%	前期実績比	前回予想比
売上高	9,853	-	10,000	-	9,800	-	-53 -0.5%	-200 -2.0%
営業利益	182	1.8%	350	3.5%	350	3.6%	+167 +92.0%	-
経常利益	138	1.4%	340	3.4%	340	3.5%	+201 +145.0%	-
税引前利益	△7	-0.1%	220	2.2%	220	2.2%	+227 -	-
当期純利益	△197	-2.0%	100	1.0%	100	1.0%	+297 -	-
EPS	△99.34 円		50.05 円		50.05 円		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">                     今回予想                      2010年度下期の予想前提レート                      USD: 81.00円                      EUR: 110.00円                      4Qの予想前提レート                      USD: 80.00円                      EUR: 110.00円                 </div>	
換 算 レ ー ト	USD	92.85 円	84.00 円		85.00 円			
	EUR	131.15 円	112.00 円		112.00 円			

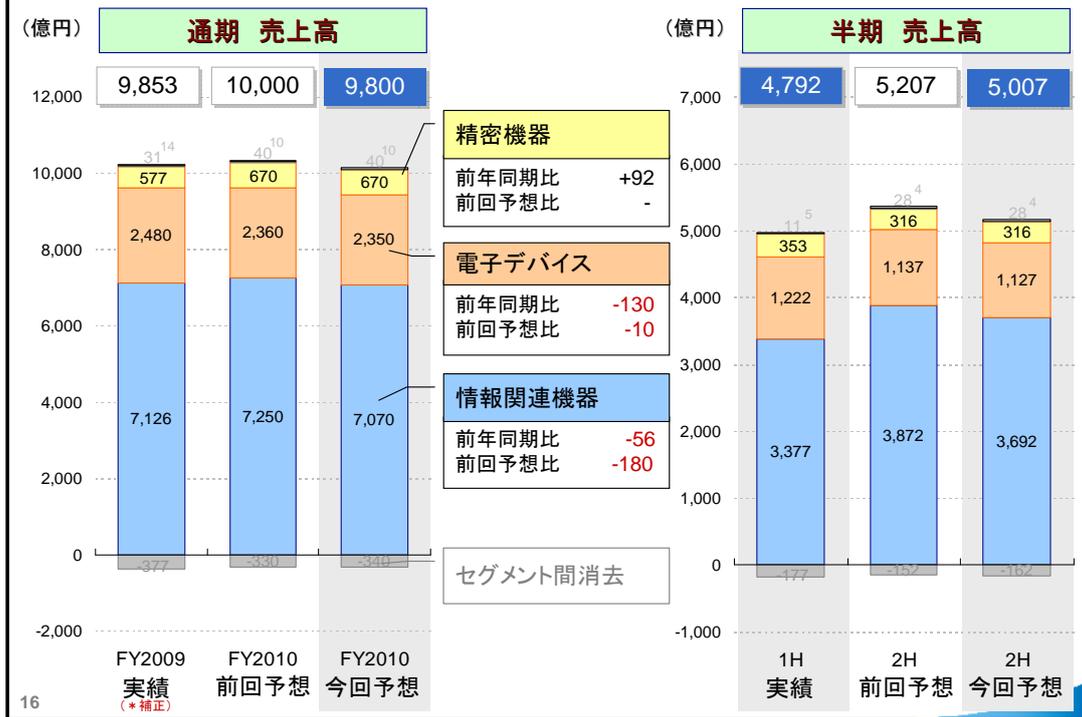
前回予想 下期の予想前提レート  
USD: 80.00円、EUR: 110.00円

15

### ■ 2010年度の業績予想

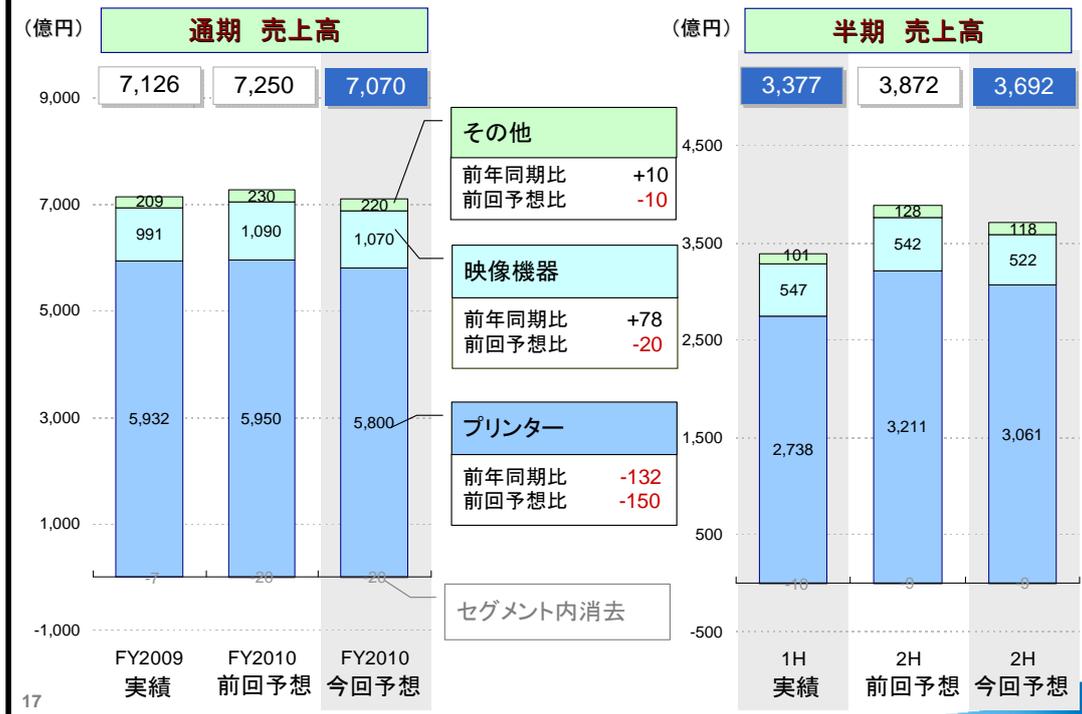
- 第3四半期の実績、ならびに各セグメントの今後の見通しを踏まえ、売上高は、前回予想を200億円下回る 9,800億円に、見直し。  
各段階利益については、営業利益 350億円、税引前利益 220億円、当期純利益 100億円と、前回予想を据え置き。
- なお、構造改革の総仕上げの年として必要な特別損失や、税金費用の前提には、変更なし。

## 2010年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



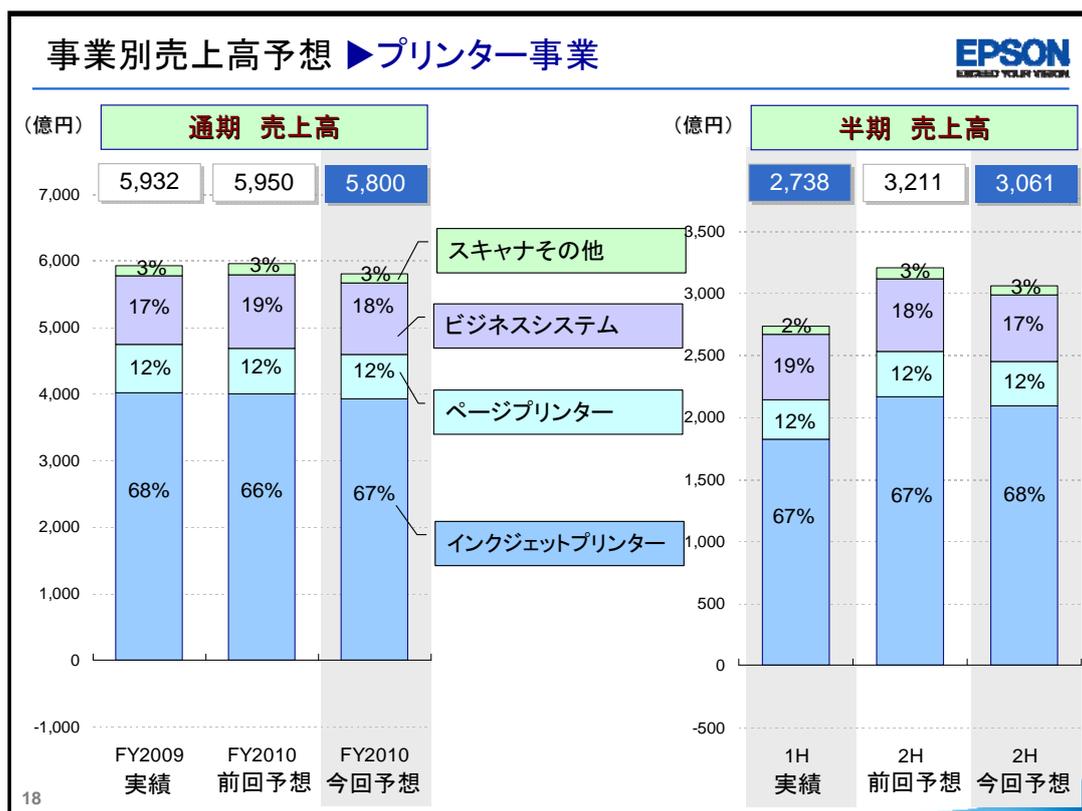
### ■事業セグメント別 売上高予想、ならびに、上期 / 下期別の内訳

## 事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■情報関連機器事業セグメントの、事業部門別売上高予想の内訳

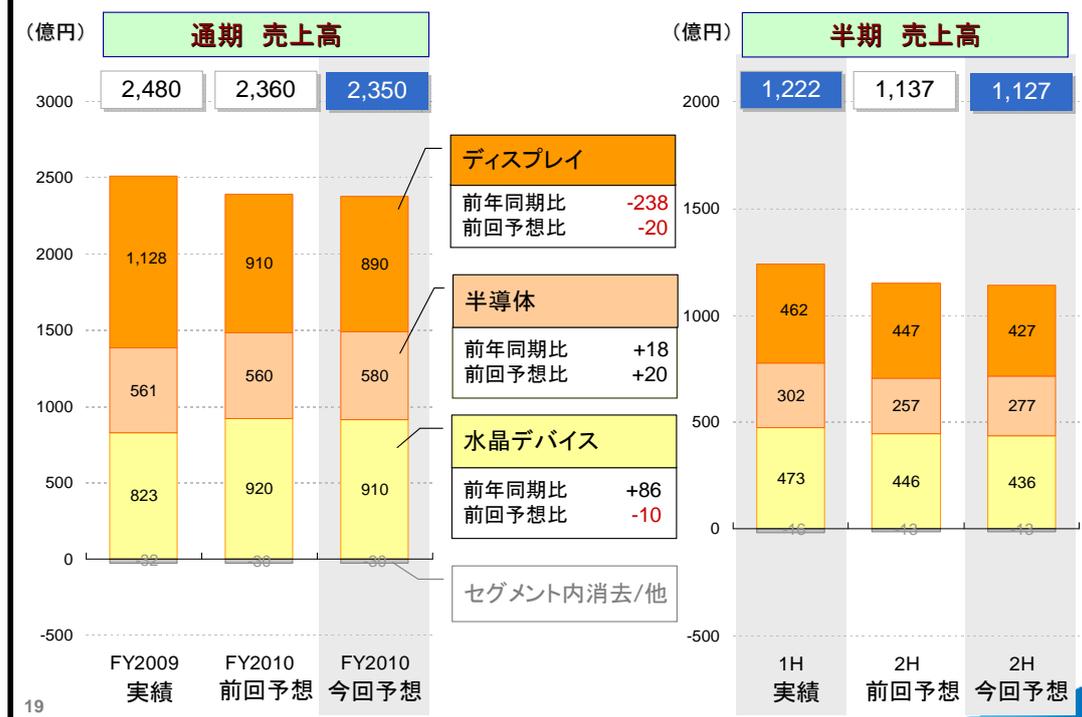
- 映像機器事業は、足元の市場動向ならびに競合他社の動向を踏まえ、通期での売上高を1,070億円に見直し、プロジェクター市場では、ビジネスおよび教育向けにおいて、引き続き堅調な需要が見込む。



## ■ プリンター事業の製品別売上高の内訳

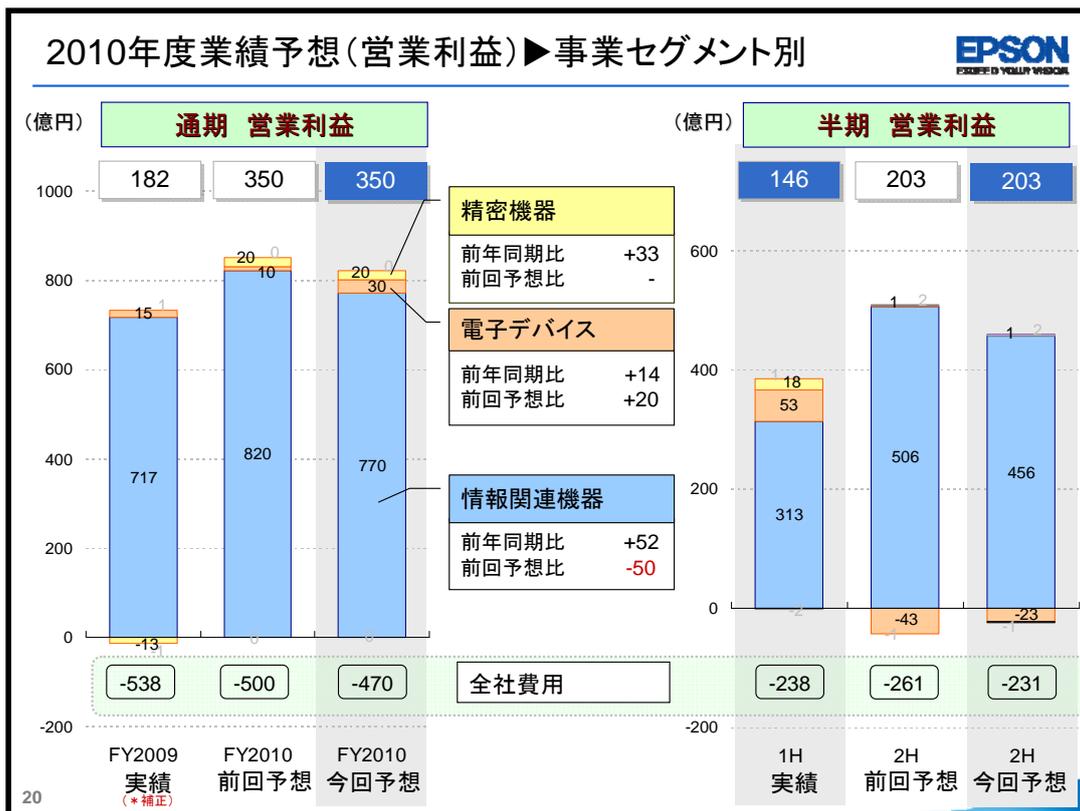
- 現時点における市場環境を踏まえた上で、売上高予想を見直し。
- インクジェットプリンターは、地域別あるいは商品ジャンル別の戦略前提に変更はないが、主に第3四半期の本体・消耗品の販売状況を反映した結果、前回予想を下回る見込み。
- 本体数量は、通期の販売数量を、従来予想の前年比プラス10%以上から、今回予想はプラス約6%へ、見直し。  
第3四半期では数量未達となったが、一方で、競合他社の動きに対応したプロモーションの効果も、着実にあらわれている。  
第4四半期は、前年並みの数量を計画。市場ならびに競合の動向を見極めつつ、最適な販売施策を展開し、目標数量の達成を目指す。
- ビジネスシステムは、POS関連製品が、欧米において本格的に大型投資案件が回復していないことから、事業全体の売上高は、前回予想を下回る見込み。  
一方で、SIDMの中国徴税向け需要は、引き続き堅調に推移する見通し。  
また、新規分野・高付加価値分野開拓への取り組みの成果として、POS関連製品のカラークーポンプリンターが、従来の欧米市場向けに続き、12月から日本市場向けの販売を開始。今後とも従来ビジネスをベースに、新規ビジネスも着実にふやしていく。

## 事業別売上高予想 ▶ 電子デバイスセグメント



### ■ 電子デバイス事業セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

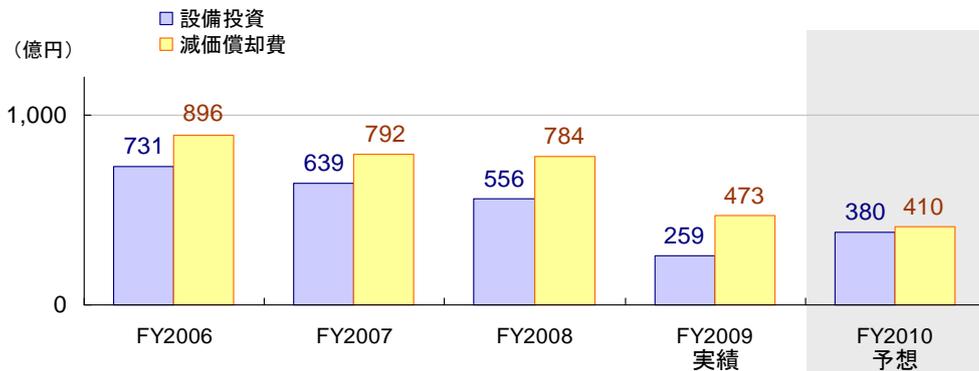
- 各事業とも、足下の需要を反映した上で、売上高を見直した。
- 半導体事業は引き続き堅調に推移する見込み。水晶デバイスおよびディスプレイ事業は、前回予想を若干下回る見込み。



■ 営業利益の事業セグメント別予想と、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器は、本体および消耗品の販売動向を踏まえ、前回予想を50億円下回る770億円を予想。  
販売状況に応じた製造・在庫の適切なコントロール、および費用の効率的な執行を行っていく。
- 電子デバイスは、前回予想を20億円上回る30億円を見込む。  
水晶デバイスは、ASP低下やコストダウンの遅れもあり、前回予想を下回るものの、半導体、ディスプレイ事業において、改善する見込み。
- 全社費用は、研究開発費を含む費用執行の慎重な対応などにより、通期で 30億円の改善見込み。

## 設備投資・減価償却費予想



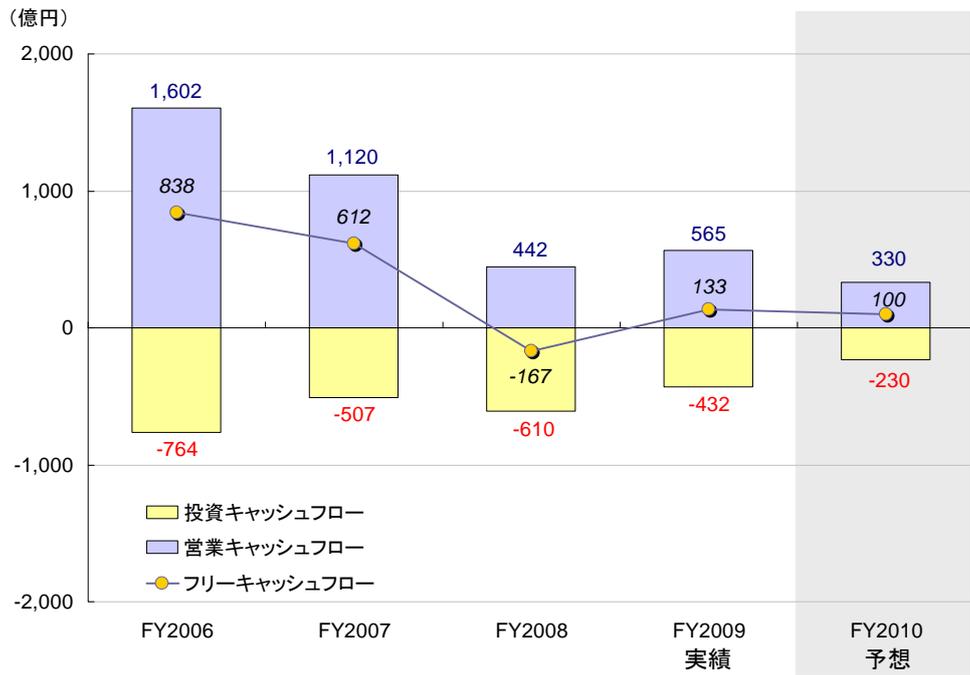
<セグメント別内訳>	FY2009実績		FY2010予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	125	244	200	220
電子デバイス	98	104	120	100
精密機器	18	39	30	30
その他・全社費用	16	85	30	60

21

### ■設備投資と減価償却費

- 設備投資は 380億円、減価償却費は 410億円に見直し。

## フリーキャッシュフロー予想

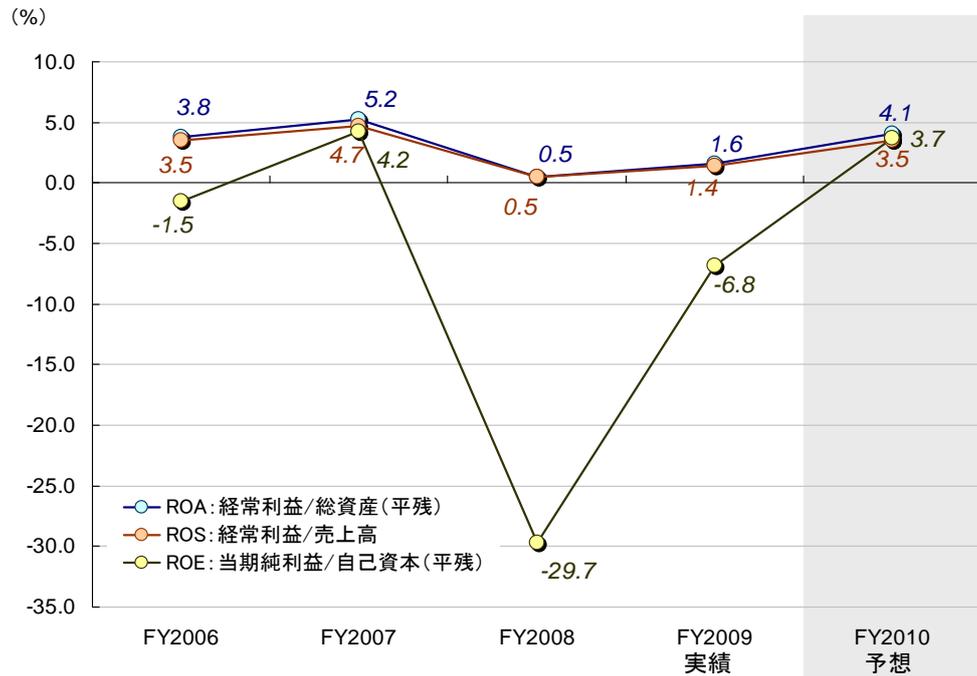


22

### ■キャッシュフロー

- フリーキャッシュフローは前回予想100億円から変更なし。

## 主な経営指標の推移



23

### ■ 主な経営指標

- ROSは 3.5 %、
- ROAは 4.1 %
- ROEは 3.7 %

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION